

# JRP NEWS

## 2010年日本語サミット in 福岡・東京

NIHONGO SUMMIT 2010 in FUKUOKA・TOKYO

### 「勇気と平和」

Let's Discuss "Courage and Peace" Together in Japanese in Japan

#### 皆様には大変お世話になりました!!!

2010年度日本語サミットは「勇気と平和」をテーマに、6月30日福岡、7月12日東京にて開催し、世界13カ国13名のパネリストが一生懸命学んできた日本語で、熱い議論を開いたしました。

今回の日本語サミットは12回目でございますが、長崎、福岡、東京の関係の皆様方には大変御世話になりましたこと、心より厚く、御礼申し上げます。

本年は過去最高の延べ65カ国から146名の応募がございました。例年にも増して、これだけ多くのご応募をいたいたいことは、世界各地で活躍する日本語教師の皆様方が、教え子に日本語サミットパネリストになって欲しいとの思いから、熱意を持って応募を勧め、指導してくださいました。日本語学習者数は世界でますます増加傾向にあり、全体的に日本語レベルは向上し、それに伴い日本・日本文化理解もより深化していると実感いたしております。そうした、層の厚い日本語学習者の中から、10倍以上の狭き門をくぐって選ばれているパネリストたちは、まさに、日本と各国との架け橋となる人材として、「金の卵」であると認識しております。

パネリストたちは日本滞在の35日間、「生」の日本語、「生」の日本文化に触れると共に、新しい家族や友人を作り、その過程で考え方抜いた「平和のためにできること」を福岡・東京両サミットにおいて発表いたしました。

今年も両会場とも多数ご来場をいただき、とりわけ、日本の多くの若い方々が、日本語を通して「勇気と平和」、具体的には、宗教における差別や偏見、異文化・異民族間対立、内戦、核の抑止力につながる議論など、多岐に渡る最新の世界情勢を、パネリスト達と一緒に考える機会としてくださいました。JRPの活動は、こうしたご来場者、期間中にご訪問させていただいた関係機関の多くの皆様方のお支えによって、より確実な形で実現できるものと考えております。

JRPの想い手である、日本語サミットパネリストは、過去11回に、本年のパネリストを加えまして、延べ176カ国200名に達しました。彼らは、日本での35日間を、かけがえのない一生の宝物をして、国へ持ち帰り、サミット後も、オールドパネリスト（OP）、JRPファミリー



開催記念レセプションにて（6月14日）

の一員として、世界中で、世代を超えて、その絆とネットワークを強めております。

私達は、長い歴史と先人の努力によって育まってきた「日本文化と美しい日本語」を、未来の留学生である子どもたちに、正しく伝えていく責任があります。

日本語は、まず相手の立場にたって、人と人との関係を作っていく、大変重要なコミュニケーションツールであり、平和を語るのに非常にふさわしい言語と思っております。

「日本語から、人を育み、平和を育む。」

JRPは今後も「日本語教師による社会・国際貢献活動」として、世界の日本語教師の皆様方、国内外の多くのサポーターの皆様と共に、日本と世界の架け橋となる優秀な人材育成、そのネットワークの構築による平和への貢献を目指して、全力で取り組んでまいります。

今後ともご協力・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ジャパン・リターン・プログラム（JRP）  
理事長 池崎 美代子





ナンシー・アラス (24才)

Nancy Eunice ALAS MORENO

エルサルバドル共和国



Republic of El Salvador

氏名 [ ナンシー・アラス ]

私の国では12年間続いた内戦のせいで、たくさんの人々が

殺されてしまいました。私の父も、1987年軍人によって殺され

ました。私はいつも復讐しちゃったし、犯人を殺しちゃっ

たです。心は悲しがって、(お)いにょって、苦しくて、心は

重い気持ちから解放されてないいつも思っていました。

それでも、私はカトリックですから、私は復讐の負の連鎖を

止めちやんとし、「どうやって父の犯人を、罪悪感から自由に

にあける事が出来るか」をいつも考えていました。心の中

でこの質問の答え(いつも「許す」事をちやんとして、あらゆ

る勇気を探し出して元気張り、神様のおかけで、許す事が

出来るようになりました。恨みも許す、この二つの選択肢から

許す事を選ぶためには勇気がとても必要でした。許すの

は莫佳しい事ですけれども、もし許せれば、両方の人生(は)き持

ちが穏やかで平和なものになると思います。だから、皆さん

(に)私のこの勇気と平和のメッセージをもとに、神様(に)

私の心の中にいる感謝の気持ちを伝えたいと思います。

[Redacted]

[Redacted]



氏名 [ アリ アル ジュブーリ ]

ページ続き

「お前が戦うのか戦うのか」と言う質問のこたえを見つけました。私は「あるべき」を手に取ります。け

んじゅうでない、ナイフでもない、私のべきはちし

きや科学です。私はもっと勉強して、もっと世界につ

いて習って、そして自分のやりかたで、現在の状況を

変えます。「ペンは剣より強い」これが私のえら

んだ道です。



「勇気と平和」について各国の若者たちが日本語で議論したサミット。日本語を勉強したきっかけなども発表された

西日本新聞 2010年7月1日(木)

## 「平和実現には許す勇気大切」

13カ国の若者 日本語で議論

天神でサミット

「2010年日本語サミット」が30日、福岡市・天神のエルガーラ本部で開催され、13カ国（日本、トルコ、キルギスなど）の若者が「勇気と平和」をテーマに自分の思いや経験を日本語で語り合った。NPO法人「ジャパン・リターン・プログラム」（東京）と西日本新聞社が主催。12年目となるサミットは、日本との懸け橋になる外国人の育成が目的で、福岡市の開催は4年ぶり2度目となる。13人は、海外から応募のあった146人の中から、作文などで選ばれた17～24歳で、この日は母國の民族衣装などを着て登場。高校生など約460人を前に、長く続いた内戦が昨年終結したスリランカのサンジワニ・ワッタサラーさん（23）が、平和とは「明日も無事に生きていられること」と実体験から定義。エルサルバドルのナンシー・エウニセ・アラス・モレノさんは、「母国の内戦で父親が軍人に殺されたことに触れ、「憎かつた犯人を許すには勇気が必要だったが、平和のためにそんな勇気が大切」と訴えた。

13人は12日にも東京での同サミットに出席。ホムステイや日本の学生との交流が組まれた35日間のプログラムを15日に終え、帰国する。



◆全員です。池上彰さんの引き出し方が素晴らしい、様々な意見を聞き、寛容の精神を持とうという意識を感じられ、テーマに沿ったディスカッションになったのではないでしょうか。とりわけ、アメリカのブレインさんと、イラクのアリさんの会話です。戦争と平和を考える、こんなに面白いディスカッションは久々です。

(男・会社員・55才)

◆スリランカのサンジワニーさんの「毎日生きて過ごすこと」自体に大きな価値があるという意見です。日本人にとっては当たり前のことに思われますが、そうではない人々が世界にまだまだ多い事に胸が痛みました。

(女・主婦・58才)

◆シリアのマナールさん。どうしたら戦争を止められるのか、の問い合わせに対する「共存すること、そのためには共通点を探すこと」という意見。相違点を受け入れることに偏りがちな考え方を、変えてくれたからです。

(男・会社員・41才)

◆エルサルバドルのナンシーさん、スリランカのサンジワニーさんです。

「許すこと、謝ることが戦争・紛争・内戦をストップさせる」未だに続いている戦争は、お互いが言いたいこと、やりたいことをやろうとしているから終わらないのだと思いました。だから、相手を理解して許す、自分の過ちを謝ることが大切。とても共感できました。

(女・中学3年・14才)

◆中国のイツケンさんの「諒めない」という考え方、根性をもって話し続けるという考え方と共感しました。

(男・団体職員・59才)

◆韓国のボムジュンさんの「互いの違いを理解することが大切」という意見です。私も外国人に対する偏見を少なからず持っていると思います。その偏見を認めることが、平和への第一歩だと感じました。

(女・中学3年・14才)

◆アメリカのブレインさんの「アメリカでは結論をその



千代田区立九段中等教育学校の生徒との交流（7月7日）

まま言うけれど、日本では本音と建前があるから、必ずしもそのまま言わない」という意見です。上記のことは、日本人の良いところでも悪いところでもあると思い、印象的でした。

(女・中学2年・13才)

◆「許す」についての「どこまで許せばいいのか」というイラクのアリさんの意見です。負の連鎖を断ち切るためにには、どうすればよいか。アリさんが彼の意見を持つに至るにはどれだけの辛い経験があったのか、と思いました。

(女・会社員・42才)

◆デンマークのレアケさんの言った「信頼」が大切という意見は、何に対しても大事だと思いました。

(男・中学3年・14才)

◆キルギスのエリミラさんの「争いの真実をしっかり見る」という意見です。新聞などでは報道されてない情報もたくさんあります。私達は、実は他国の本当の状況を知らないのではないかと思いました。

(男・53才)

◆エルサルバドルのナンシーさんの「許すことから始める」という意見です。人を許すということは簡単に思えて難しいことです。僕にもできるだろうか、と考えさせられました。

(男・中学3年・14才)

日本経済新聞 2010年7月13日（火）



## 祖国思い平和を討論

東京で「日本語サミット」

世界と日本の懸け橋となつてのペナル討論に移行した。イラク出身の男性、アリ・ジュブリさん（22歳）は、「（イラクの復興に向け）私は拳銃やナイフではなく、知恵を武器に戦つ」など語った。エルサルバドルの女性、ナンシーさん（24歳）は、「私の父は内戦で殺された。相手を憎んだが、負の連鎖を止めるため、今では相手を許すことが大事だと考えていました」と話した。

日本語から、  
人を育み、  
平和を育む。



ジャパン・リターン・プログラム（JRP）は1995年創設以来、  
「日本語・日本の文化力による社会貢献活動」を行っている、  
特定非営利活動法人（NPO法人）です。  
これまで、延べ176カ国200名の  
日本語を学習している外国籍青少年を日本に招待し、  
「生」の日本語、「生」の日本の文化に触れてもらってきました。  
その中で、  
日本語の上達はもちろんのこと、  
日本をもっと好きになってもらい、  
ここで出会った各国の「日本語ともだち」と  
かけがえのない絆を築いてもらえたなら、と願っています。  
今後も、  
日本と世界の架け橋となる優秀な人材の育成、  
そして彼らのネットワーク構築による平和への貢献を目指して、  
全力で取り組んでまいります。

主催・問い合わせ先  
特定非営利活動法人 ジャパン・リターン・プログラム（JRP）  
〒107-0052 港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックスビル4F  
Tel: 03-3589-3587 Fax: 03-3589-3573  
E-mail: jrp@bna.co.jp  
http://www.nihongo.or.jp/

